

2018年度

宇都宮共和大学 講師派遣制度のご案内

【テーマ一覧】

社会生活		
<ul style="list-style-type: none">● これからの住まい● これからのまちづくり● LRTとまちづくり● 住めば愉快だ宇都宮 ～都市ブランドの推進に向けて～● 自転車は未来を救う	<ul style="list-style-type: none">● 持続可能なまちづくりと環境 ビジネスを考える● 地球環境と私たちの暮らし● 北欧の消費者保護政策 ～スウェーデンの消費者オン ブズマン制度を中心として～● 価値財供給と住民	<ul style="list-style-type: none">● 広がる福祉産業 ～身近な生活の利便性と福祉～● 日常生活と法律● 社会から見る人間の行動● 統計からみる地域のすがた● 都市の空き家問題と対策
経済		
<ul style="list-style-type: none">● 地域は消滅するのか？● 都市を科学する● ふるさと再発見のマーケティング	<ul style="list-style-type: none">● 景気の見方・考え方● NPO会計入門● 建設業会計入門● 経済学の考え方 ～日常生活を考えるヒント～	<ul style="list-style-type: none">● 消費税をめぐる論点● 円高・円安と日本経済● 社会人にも役に立つ教育心理学
教育・教養・語学		
<ul style="list-style-type: none">● 日本の「学力」 ～教育成果と課題～● 日本教育の特質 ～グローバリズムとローカリ ズムの統合～● 人権問題・人権教育 ～その歴史と現状と課題～	<ul style="list-style-type: none">● アンケート自由記述項目のテ キストマイニング分析● 地方議会会議録を見る● 外国人が日本語教師によくす る質問	<ul style="list-style-type: none">● 日本語概説● 日本語教育概説● 異文化理解● 「正義」から考える法哲学入門



UTSUNOMIYA KYOWA UNIV.

宇都宮共和大学

社
会
生
活

教員名・担当科目	テーマ	概要
教授・学部長 山島 哲夫 ■シティライフ学 ■住宅論	これからのまちづくり	<p>人口減少社会を迎え、地方のまちは大きく変容しつつあり、集約型のコンパクトな都市構造とすることが必要になっています。快適なまちとするためには、私たちが主体的にまちづくりに関わっていく必要もあります。さまざまなまちづくり活動の事例を紹介するとともに、魅力的なまちや歩いて暮らせるまち等について考えます。併せて、まちづくりに関連する制度やしきみについて分かりやすく解説します。</p>
	これからの住まい	<p>人口構成の変化により、高齢者の住まい方は、子どもとの同居という形態が減少し、高齢単身、あるいは高齢夫婦のみの形態が非常に多くなっています。また、大量の空き家が発生し、空き家対策が重要な政策課題として取り上げられています。一方、安全で安心して暮らせる住まいに対する要望も強くなってきています。これからの住まいを考える前提条件が大きく変化してきた背景を探るとともに、住まいのあり方等を考えます。</p>
特任教授 古池 弘隆 ■都市と交通	L R T とまちづくり	<p>現在宇都宮ではLRTを導入する動きが進んでいます。しかし、LRTとは何か、またなぜLRTを導入する必要があるのか、さらにはどのような課題や効果があるのかについては必ずしも市民に十分に理解されているとは言えません。本講座では、世界的な潮流となってきた自動車依存社会からの脱却と都市再生、地球環境問題、高齢化など多様な視点からLRTと他の交通機関との関係や交通まちづくりの問題について論じていきます。</p>
	住めば愉快だ宇都宮 ～都市ブランドの推進に向けて～	<p>今後の人口減少時代には、都市間競争がますます激化していきます。その中で宇都宮が100年先も持続可能な都市として発展し続けていくためには、都市そのものの価値や魅力を高め、住む人が「誇り」を持ち、そして市外の人々からは「憧れ」を持って見られ、選ばれるまちにしていくことが重要です。そのため宇都宮市では、2008年から都市ブランド戦略を市民とともに積極的に推進しています。本講座では、宇都宮市の取り組みとその成果について紹介し、これからの都市はいかにあるべきかについて皆さんと一緒に考えてみたいと思います。</p>
	自転車は未来を救う	<p>今、世界中で自転車が地球環境にやさしく安価で健康的な乗り物として、注目を集めています。一方、日本ではこれまで自動車中心の交通政策が取られてきたため、自転車は利用者が多いにもかかわらず、さまざまな問題を抱えてきました。しかし、最近自転車に対する考え方が大きく変わってきています。宇都宮市でも他に先駆けて、自転車をまちづくりに活用していこうという計画が進んでいます。本講座では、世界で進んでいる自転車利用の動きを紹介するとともに、宇都宮における自転車利用の課題や展望についてお話します。</p>

教授 吉田 肇 ■環境政策論 ■地球環境論	持続可能なまちづくりと環境 ビジネスを考える	私たちが生活の利便性や経済的な豊かさを追い求めてきた結果、大量生産・大量消費・大量廃棄が当たり前になり、都市を取り巻くあらゆる分野で、深刻かつ複雑な問題が発生し、その解決策や社会のあり方が問われています。エネルギー・環境からの制約をのりこえ、人々を豊かにするものは何か、私たちの価値観・ライフスタイル、都市と農山村の関係など、持続可能なまちづくりと環境ビジネスの果たす役割を探ります。
	地球環境と私たちの暮らし	人類は個体数やその活動量を著しく拡大していますが、これに伴ってこれまで多くのエネルギーを利用してきました。なかでも化石燃料の大量消費は、今や地球環境を変えてしまうほどの状況に達しています。地球温暖化、生物多様性など人類に突きつけられた喫緊の課題に対しては、国や事業者はもちろんのこと、私たち一人ひとりが行動していくことが求められています。
教授 内藤 英二 ■経営学総論 ■マーケティング論	北欧の消費者保護政策 ～スウェーデンの消費者オン ブズマン制度を中心として～	スウェーデンの消費者オンブズマン制度は、製品安全性から通信販売にいたる広範囲の各種根拠法に照らして、消費者被害に関わる苦情の受付・調査、調停、指導、命令等を行い、最終的には当事者を告発する検察官の役割をも果たす権限を与えられています。消費者オンブズマンは「消費者庁」の長官を兼務しており、この「消費者庁」の組織形態は、わが国の「消費者庁」と消費者保護政策にも少なからぬ影響を与えています。
教授 和田 佐英子 ■地方財政論 ■財政論	価値財供給と住民	地方自治の根源にあるものは、そこに住む住民の意思です。しかし、そのすべてが行政需要(財政需要)として認識され、政府として尊重しなければならない住民の意思であるとは限りません。本講座では、「政府の役割とは何か」という根源的な問題を再検討しながら、政府が尊重していくべき住民の意思について考えていきます。
専任講師 笹川 陽子 ■社会保障論 ■福祉産業論	広がる福祉産業 ～身近な生活の利便性と福祉 ～	高齢社会の進展に伴い、社会経済全体のあり方の転換が迫られています。特に、多くの企業はこれまで収益性の低い福祉への関心が希薄でした。しかし、近年、少子高齢化の進展に伴い「バリアフリー」から「ユニバーサル・デザイン」という考え方が広まるにつれて、企業が「広義的な福祉」の立場から生活に便利な商品やサービスを提供しています。日常生活における商品・サービスが福祉と結びつき、企業がどのような取り組みをしているかを考察します。
専任講師 吉良 貴之 ■法学入門 ■憲法	日常生活と法律	「法律」というととても難しいもの、できればかわりたくないもの、というイメージがあるかもしれませんが、私たちは法律と無関係に過ごすことはできません。むしろ積極的に、法的なものの考え方を身につけ、法律を積極的に「使いこなす」力が現代社会では必要になっています。裁判員裁判、企業での法令遵守(コンプライアンス)、労働、地域の環境、まちづくり、教育……、ご要望に応じ具体的な場面を取り上げ、法律の「賢い使い方」を考えてみたいと思います。
専任講師 小浜 駿 ■教育心理学 ■社会学入門	社会から見る人間の行動	おそらく、ほとんどの人が「自分の行動は自分の意思で決めている」と考えると思います。その考えは、ある部分では正しいと言えるでしょう。しかし、人間の行動が他者や周囲の環境に影響されることも確かです。隣にいる人や周囲の騒音、はては社会制度まで、私たちが影響を受けているさまざまなことがらについてご説明します。

専任講師
西山 弘泰
■都市問題入門
■地理学概論

統計からみる地域のすがた

5年に一度、全世帯を対象として行われる国勢調査は、都道府県別、市区町村別、町丁字別などさまざまなスケールで地域の人口や世帯の特徴を知ることができます。地域の特徴を統計データを用いて客観的かつ俯瞰的に把握し、その地域の“強み”と“弱み”を知ることによって、コミュニティ、地域活性化の糸口を考えます。また、誰でもできる統計の収集方法、活用方法についても解説します。

都市の空き家問題と対策

空き家の増加による地域衰退、放置空き家による事件・事故の発生など、空き家が引き起こす諸問題が身近なものになりつつあります。将来、空き家が爆発的に増加することが予想される中で、放置空き家を増やさないようにするためにはどうしたらよいのでしょうか。個人でできる空き家対策からコミュニティ、行政、そして民間事業者の空き家対策をご紹介します。

教員名・担当科目	テーマ	概要
教授 森 寛史 ■マクロ経済学 ■経済統計論	地域は消滅するのか？	高度成長期の頃から過密過疎と格差を巡る問題についてさまざまな政策的対応がなされてきました。この問題が解消されることなく、少子高齢化が急速に進むなか、「地方創生」が現政権の重要課題として注目を集めています。とりわけ「増田レポート」において、「地方消滅」の危機として社会から衝撃をもって受け止められています。本当にそうなのか、提唱されている「選択と集中」等の政策的対応で良いのでしょうか？こうした問題を考えてみたいと思います。
教授 吉田 肇 ■都市経済学 ■都市計画論	都市を科学する	私たち一人ひとりの個性や行動はバラバラであっても、都市レベルで見ると共通的な法則や傾向があることはよく知られています。「都市の世紀」と呼ばれた20世紀を振り返るとともに、都市や私たちがどこに向かうのかなどについて考えてみましょう。
教授 内藤 英二 ■経営戦略概論 ■マーケティング論	ふるさと再発見のマーケティング	消費者の必要や欲求を発見し、それを深く掘り下げ、商品やサービスを計画・開発し、価格を付け、包装を施し、広告や宣伝を実行し、使用する消費者まで届ける、という一連の活動を「マーケティング」といいます。私たちの身の周りにある商品やサービスは、マーケティングの活動によって生まれたといっても過言ではありません。本講座では、こうしたマーケティングのさまざまな手法を使って、まちづくりや地域の活性化に役立てる方法を、受講者のみなさんと一緒に考えていきます。
教授 田部井 信芳 ■国際経済論 ■経済学入門	景気の見方・考え方	経済はグローバル化し、世界経済は相互依存の関係にあります。日本の景気も自国だけ考えていたのでは説明できません。グローバル化時代の景気の見方について説明し、日本経済や世界経済の今後について考えます。
客員教授 飯島 二郎 ■現代会計論 ■管理会計論	NPO会計入門	NPO法に規定する会計は、NPO法人が事業報告・会計報告などの情報を公開し、市民が活動に参加できる機会をつくり、市民監視により公益性を担保する情報公開制度を確立して説明責任の役割を果たす重要な手段の一つとして位置づけられています。NPO法人会計基準では、質の高い会計報告が求められています。本講座では、NPO会計の内容をわかりやすく解説します。
	建設業会計入門	WTO政府調達協定の発効に伴う建設市場の国際化が進んでいます。国内でも公共工事における入札制度や契約制度の改革が実施され、平成6年度より公共工事の入札に係る経営事項審査の見直しが行われました。この改革に伴い、建設業計理士検定試験2級以上の有資格者が入札審査の評価対象とされました。建設業界は、新たな競争の時代を迎え、簿記会計の知識と会計処理能力を身につけた有能な人材を求めています。建設業計理士検定試験は、昭和56年度から実施されています。本講座では、建設業会計の内容をわかりやすく解説します。

<p>准教授 大石 和博 ■ミクロ経済学 ■環境経済学</p>	<p>経済学の考え方 ～日常生活を考えるヒント～</p>	<p>なぜ、寿司屋には特上、上、並があるのだろう。なぜ、タクシーは動かなくてもメーターが上がるのだろう。買った本がなかなか捨てられない。日常生活ではさまざまな疑問や悩みがありますね。本講座では、日常生活での素朴な疑問を出発点として、みなさんと一緒に「経済学的なものの方」について考えてみたいと思います。</p>
<p>専任講師 今 喜史 ■日本経済論 ■経済政策論</p>	<p>消費税をめぐる論点</p>	<p>消費税率の10%への引き上げが2019年に予定されていますが、前回の8%への引き上げの時と同じように賛否が分かれています。なぜ、いま、他の税ではなく消費税が必要と考えられているのでしょうか。私たち生活者の立場からの視点と、政府や経済学者が主張していることの双方を踏まえながら、消費税の必要性をあらためて考え直してみたいと思います。</p>
	<p>円高・円安と日本経済</p>	<p>1ドル＝〇〇円という為替レートが変化すると、海外旅行に割安で行けるようになったり、外貨預金で思わぬ損得が発生したりします。それでは、為替レートがこれから円高と円安のどちらへ動くのか、正確に予想することはできるのでしょうか。また、日本の消費者や企業にとって、円高と円安のどちらが好ましいといえるのでしょうか。最近の為替レートと日本経済の関係について、経済学からの知見をご紹介します。</p>
<p>専任講師 小浜 駿 ■教育心理学 ■社会学入門</p>	<p>社会人にも役に立つ教育心理学</p>	<p>教育心理学と聞くと、学校で役立つ、あるいは子どもに使う知識というイメージが強いのですが、大人に対しても有効な知識はたくさんあります。どれだけ叱咤激励しても頑張ってくれない社員のやる気を出させる方法や、効果的なリーダーシップスタイル、会議が十分に機能しない理由など、産業場面でも役に立つ知識をご紹介します。</p>

教育・教養・語学

教員名・担当科目	テーマ	概要
特任教授 遠藤 忠 ■教育原理 ■教育課程論	日本の「学力」 ～教育成果と課題～	国際的な学力調査が人々の大きな関心を集め、国際的な学力競争が激しさを増しつつあります。このような状況の中で学力を含め日本の教育成果を改めて確認するとともに、グローバル化の進行の一方で環境やエネルギー問題、価値観の多様化、経済格差等々の諸問題が競合し社会の不安定化が懸念される今日の状況の中で、より有効な教育が築きあげられるための課題を考えます。
	日本教育の特質 ～グローバルズムとローカリズムの統合～	明治維新で日本は近世以降発展させてきた教育システムを廃棄し、欧米の教育システムをモデルに近代的教育システムを作り上げました。その特質は、教育機会の平等化と体系化、教育内容の近代化(西洋化)、教育方法における能力主義の徹底でした。しかし、その後の教育の発展は欧米とは異なる日本化の道をたどってきました。なぜその道を選んだのでしょうか。義務教育の発展を例に明らかにします。
教授 寺内 孝夫 ■社会科教育法 ■教職実践演習	人権問題・人権教育 ～その歴史と現状と課題～	憲法が保障する基本的人権が尊重された平和で豊かな社会を築いていくことは、私たち一人ひとりの共通の願いです。しかしながら、わが国の人権に関する現状を見ますと、今なお不当な差別や偏見が存在し、国際化、情報化、少子高齢化等に伴う社会構造の複雑化や価値観の多様化の中で、新たな人権問題も生じており、人権教育の果たす役割はますます重要になってきています。私の人権教育行政や学校現場での実践、市町での家庭相談員(児童虐待対応)等の経験を踏まえながら、差別や偏見をなくし、相互の尊敬に基づいた真の共生社会の実現のために何ができるのか、一緒に考えてみたいと思います。
教授 高丸 圭一 ■情報基礎論 ■情報演習	アンケート自由記述項目のテキストマイニング分析	アンケート調査は顧客満足度などを評価する際に重要な役割をもつものです。しかし、アンケートの自由記述項目は(有用な意見が含まれているにもかかわらず)統計処理から除外され、ざっと眺めるだけで、そのまま放置されてしまうことも少なくありません。本講演では自由記述をテキストマイニング分析することにより、回答の傾向を把握したり、回答に含まれるキーワード間の関係を抽出する方法について解説します。
	地方議会会議録を見る	近年、地方分権や地方創生などの議論が盛んになっており、地方政治が注目を集めています。議会における首長や議員の発言がすべて記録された会議録はインターネットで公開され、誰でも居ながらにして日本全国の地方議会での発言を読むことができます。本講演では、インターネットに公開された地方議会会議録の見方について解説します。次に、横断的な分析から読み取れる議会発言の言語的特徴と政治課題の特徴について明らかにします。

<p>准教授 松田 勇一 ■日本語基礎 ■語学演習</p>	<p>外国人が日本語教師によくする質問</p>	<p>「もっと高い」と「ずっと高い」は、どちらの方が高いのでしょうか。また、「思う」と「考える」の違いは、何でしょうか。こうした簡単な言葉でも、いざその違いを説明するとなると難しいのではないのでしょうか。外国人日本語学習者がよくする質問を通じて、日本語を観察してみたいと思います。</p>
<p>専任講師 石井 誠 ■日本語基礎 ■日本語応用</p>	<p>日本語概説</p>	<p>普段何気なく使っている日本語、この日本語とは、どんな言語なのでしょう。言語学の立場から客観的に見てみましょう。また最近話題になっている若者たちの日本語を分析してもおもしろいかもかもしれません。</p>
	<p>日本語教育概説</p>	<p>外国人に日本語を教えるとはどういうことか、概説します。実際の授業はどうやっているのか、外国人によく聞かれる質問や日本国内、日本国外の日本語教育の実情なども含め、なるべく具体的にお話します。</p>
<p>専任講師 吉良 貴之 ■法学入門 ■憲法</p>	<p>「正義」から考える法哲学入門</p>	<p>ハーバード大学マイケル・サンデル教授の「白熱教室」は、日本でも人気になりました。震災・原発事故以降の社会不安、高まる「改憲」論議、経済情勢の変化など、社会は現在、さまざまな大問題をめぐって大きな岐路にあります。こうした状況で、自分が「何主義者」なのかを改めてじっくり考えてみたいという方が増えているように思われます。「正義」をめぐるさまざまな味方をご紹介します。それを具体的な社会問題にあてはめて考えていくなかで、哲学的に考えること、そして対話することの楽しさを味わいましょう。</p>
	<p>異文化理解</p>	<p>グローバル化が叫ばれ、人の移動も大規模になっています。日本で暮らす外国人も増えており、地域住民との摩擦が問題になることもあります。日本の企業が海外へ進出したり、日本国内の企業が外国人社員を採用したりと、日本人と外国人と一緒に仕事をする機会も増えています。現代社会を生きていく上で、異文化を理解することが重要になっています。異文化理解とはどういうことなのか、考えてみましょう。</p>

宇都宮共和大学講師派遣制度のご利用について

宇都宮共和大学は、地域の市民・企業の皆様方の学習意欲に応えるべく、シンポジウム・講演会、セミナー、市民講座などを開催してまいりました。これらの開催、実施に当たりましては、市町村、商工会議所・商工会等の行政や産業団体の皆様方にご協力、ご支援をいただきました。厚く感謝申し上げます。

また、「宇都宮共和大学講師派遣制度」も、これまで多くの行政・産業団体等の皆様方にご活用いただき、ご好評を得てまいりました。引き続き、本制度をお気軽にご利用くださいますよう、よろしく願い申し上げます。

お申し込み方法

①講師派遣の講座等について

市町村および商工会議所・商工会等産業団体が開催する講座等に、本学の教員を講師として派遣いたします。

②テーマと派遣講師について

記載以外のテーマをご希望の場合は、ご相談ください。講師のプロフィールについては、『宇都宮共和大学研究者名鑑』をご参照ください。

<http://www.kyowa-u.ac.jp/common/sysfile/binaries/ID00000003binary1.pdf>

③講師派遣費用について

講師派遣費用（講師謝金、交通費等）は、お申し込み団体の規定に従います。本学では、一律に設定いたしておりません。

④お申し込み方法について

所定の申込用紙に必要事項をご記入の上、右記にお申し込み下さい。申込用紙は、本学ホームページからダウンロードできます。

<http://www.kyowa-u.ac.jp/laboratory/guide.html>

【お申し込み先・お問い合わせ】

宇都宮共和大学 シティライフ学部 講師派遣係

- 住所 〒320-0811
栃木県宇都宮市大通り1丁目3番18号
- 電話番号 028-650-6611
- FAX番号 028-650-6612
- 電子メール soumu@kyowa-u.ac.jp
- ホームページ <http://www.kyowa-u.ac.jp>

宇都宮共和大学 都市経済研究センター